《学校教育目標》	〈重点目標（中長期的目標）〉
幅広い教養と高い専門性を追求し、社会に開かれた学びをとおして、平和な未来に貢献できる心豊かな人間を育成する	**【ひとづくり(豊かな情操を育む人間形成)】** １　生命の尊厳を自覚し、真理と正義を愛する知識・教養・創造性豊かな人間の育成に努力する。 【ものづくり(付加価値の創造)】 ２　独創(Originality)・想像(Imagination)・工夫(Device)・努力(Effort)の精神を尊重し、工業･商業両分野における〝ものづくりの拠点校〟としての役割を果たす。 【学校づくり(充実した学びの場の構築)】 ３　安心・安全な学校(いじめ・体罰のない）をめざすとともに、環境教育や総合技術高校としての専門教育の推進等による特色ある教育システムを構築する。

領域	項目	具体的な教育活動	成果と課題
ひとづくり	１　自他を大切にする心の育成	・様々な教育活動を通して自己理解を深める取り組みを行い、自己肯定感や他人を思いやる気持ちを育てることにより、命を大切にする教育を推進する。 ・メディアリテラシー、人権平和教育等に関する教育活動を推進する。 ・自主的な生徒会活動や積極的なクラブ活動への取り組みを行う中で、地域との繋がりや他者を思いやる気持ちを持った豊かな人間性を育む。 ・「いじめ防止基本方針」を定め、「いじめ」を許さない学校づくりを推進し、いじめ被害の未然防止・早期発見・迅速な解決を目指す。	・学校生活アンケートを年２回実施し、生徒の状況把握といじめ被害の未然防止に努めた。学校生活に特に不安を持っている生徒について担任からの情報をもとに、スクールカウンセラーを積極的に利用して生徒の不安軽減に役立てることができた。来年度については、カウンセラーや外部の講師からの講演や出前講座を通して、「他人を思いやる気持ち」についてより強い意識が生徒の中に根付くことを目指し、継続的に働きかけを行っていきたい。〔教育相談係〕 ・生徒会活動では新型コロナウィルスの蔓延・休校により、３年生の生徒会執行部が活動内容を詰め切れないままスタートしたが、役員の意識が高かったため、生徒が主体的に動き、各種行事を運営できた。課題としては、各種行事がさまざまな制約を受け、中止・縮小を余儀なくされる中で、どこまでできるのか、実施可能なのかを生徒に示すことができず、準備が遅れてしまった点が挙げられる。〔生徒会係〕 ・生徒指導係としていじめと判断し指導したものは１件であったが、いじめの発生はいつでもありうるとして未然防止、早期発見に努めていく。特にＳＮＳ等に関わるいじめは表に現われにくいので、常に生徒の様子に注目し変化をとらえる必要がある。〔生徒指導係〕
	２　基本的生活習慣の確立	・日常生活において、職員全体による働きかけから挨拶・服装・頭髪などに対する生徒自身の意識を向上させるとともに、５Ｓ（整理・整頓・清掃・清潔・躾）の充実を図る。 ・生徒会役員を中心とした朝のあいさつ運動や生活委員会の活動を通して、学校全体が心を通わせ、規則正しい生活が送られるように方向付ける。	・全職員による授業開始時の見回りや登下校時の立ち番指導、各学期当初の身だしなみ指導等を実施した。学校全体としては落ち着いた生活を送ることができていたが、身だしなみや挨拶等に改善の余地がある。〔生徒指導係〕 ・生徒会役員による「あいさつ運動」を４月と１２月に実施することができた。身だしなみ検査に関しては各クラスの生活委員が関わってきたが、生徒からの呼びかけがどこまで浸透するか、させることができるか限界を感じている。〔生徒会係〕
	３　得意分野の伸長 **（卓越性の伸張）**	・個々の意欲や特性ならびに能力を活かした活動ができるような環境や指導体制を整えるとともに、活動を広く発信することにより活動意欲を喚起する。 ・課題研究をはじめ様々な授業で積極的に外部との連携をはかり，21世紀型スキルの1つであるコミュニケーション力の伸長をはかる。 ・授業,クラブ活動,行事等をリンクさせ,自ら課題を見つけ,自ら学び,自ら考え,主体的に判断し行動して、問題を解決する能力を身につけさせる。 ・キャリアデザインに繋がる資格・検定・コンテストの情報提供を行うとともに、資格取得に向けて生徒の要望や実態に合わせて講習会や補習授業を実施する。 ・終業式等の全校集会時に難易度の高い資格取得や検定合格を表彰し、資格検定の紹介を模造紙サイズに印刷して廊下や階段に掲示するなどの工夫を行い、資格取得に向けての意識づけを強化する。	・資格取得や基礎学力向上を目的とした講習会や補習授業を該当学科や教科が計画し、実施することができた〔キャリア学習係〕 ・検定等日程一覧を作成してＨＲ教室に掲示し、資格取得や検定への意欲向上を図った。また、各学期の終業式では難易度の高い資格取得や検定合格者の表彰を教室への映像配信により実施した。〔キャリア学習係〕 ・学科間連携を取り入れた課題研究では、外部企業・団体とも連携して取り組み､充実した成果を発表することができた。〔専門教科〕 ・多くの生徒がクラブ活動、生徒会活動に参加し、自分なりに課題・問題意識を持ってその解決に努め、自分を高める活動ができた。全校の集会が実施できない中であっても、放送や映像配信を使用した壮行会を開催し、努力を重ねてきた生徒を応援する体制をとることができた。コロナ禍にあって、生徒が想定しない事態の中で従来の知識や情報に囚われずにその時々でどう行動するかを考えさせることが不十分であった。〔生徒会係〕
ものづくり	１　基礎学力の定着 **（高校教育の共通性確保）**	・学習習慣を身につけさせ、学ぶ意欲の向上を図る。 ・地域社会の課題に関心を持たせ，課題解決学習を通して学び続ける力の育成を図る。 ・「考査前学習週間」を設定し、各学年毎に朝学習を計画的に実施して学習習慣の定着と学習時間の確保を図る。 ・新型コロナウィルス感染症に伴う様々な事態に備え、ＩＣＴ機器を活用した学習支援態勢の構築を図る。 ・月に一度ＨＲで活用できる道徳教育ワークシートを配布、様々な社会的課題や地域の問題についての知見を深め、関心をもって問題解決に向かおうとする態度を養う。	・長期休業明けに基礎科目を中心とした全国規模の業者テストを実施し、その判定結果を活用して学力向上に向けた意識づけを行うことができた。「定期考査前朝学習」については、実施方法を含めたより効果的な取り組みを検討して欲しいとの課題が残された。〔キャリア学習係〕 ・１学年普通科目内実施の学習プログラム「協創教育基礎」では普通教科の視点から地域社会に関心を持たせることができた。２学年の学校設定科目「地域ビジネスと環境」ではＡＩ（人工知能）やＳＤＧｓといった現代的な社会課題について関心を持たせることができた。〔地域協創推進室〕 ・道徳教育ではＨＲで活用する資料として「地域防災」「ＳＮＳ」「ジェンダー」「平和教育」「人権教育」などをテーマとしたワークシートを年間７回発行し、様々な社会課題に関する問題意識の喚起を促した。
	２　専門力の伸張	・学科の教育指導方針に沿い、職業人としての心の育成、資格・検定取得のための指導、地域人教育での社会人基礎力の向上に取組む。 ・「高度な専門性」を伸長させるためにコンソーシアムや地域の企業等と連携し、講習会や講演会を実施する。 ・実験実習や課題研究をとおして知識･技能、思考力･判断力･表現力、学びに向かう力･人間性を向上させ、専門分野の実践的な力をつけるとともに、専門分野への探究心を育む。	・専門教科の実習授業では資格取得の促進や時代のニーズに合わせた実験・実習内容を行うことにより、専門力の向上を図った。〔専門教科〕 ・コンソーシアムや地域の企業の協力のもと講習会及び講演会が実施できたことにより、各学科の専門性を高められたほか、技術者としての心構えを学ぶことができた。〔地域協創推進室〕
	３　総合技術教育の推進	・学校設定教科「総合技術」に設定される｢地域活性プロジェクト｣、｢地域ビジネスと環境｣及び普通科目内の学習プログラム｢協創教育基礎｣の実践や授業内容に関わる地域企業などとの連携等、地域の教育資産をカリキュラムに取り入れることにより、協創力や課題解決力の向上を図る。 ・他の総合技術高校との連携を深め、情報を共有することにより、学校設定教科「総合技術」の深化・発展を図る。 ・全校課題研究発表会の内容の充実を図り、本校の特色ある教育活動を企業や地域に向けて発信する良い機会と捉え効果的なＰＲ方法について工夫する。	・今年度より１学年「協創教育基礎」（35時間）、２年生「地域ビジネスと環境」（70時間）の授業が実施できたことにより、教科や学科の枠を融合した学びの深化が図れ、３年生「地域活性プロジェクト」を含めた３年間の総合技術に関する教育課程（カリキュラム）を設置することができた。〔地域協創推進室〕 ・コロナ感染拡大防止を念頭に全校課題研究発表会の形態を検討し、発表者の映像を教室配信するなどの改善を図り、各専門科や係と連携することができた。〔キャリア学習係〕
	４　進路指導の充実	・３年間を見通した指導体制の下、面談等を計画的に行い、生徒･保護者の個々の進路希望を把握し、様々な進路行事を通じて進路に対する意識を高める。 ・進学希望者、就職希望者に対する補習、面接指導等を計画的に実施するとともに、生徒個々の進路希望の実現に向け家庭との連絡を密に取りながら適切な支援を行う。 ・「キャリアパスポート」のシートや学習支援サービスなどを活用し、自分の在り方や職業人としての生き方を構想し続ける力を育む。 ・新しい入試制度の情報収集に努め、適切な支援を行う。	・３年生全員に面談を実施し、生徒個々の進路希望の把握に努めた。就職希望者に対して全職員が面接練習を担当して採用試験に備えた。４年制大学進学希望者には個別に担当職員を割り当て、受験対策指導を行うことにより入試制度の複雑化に対応した。就職・進学の説明会を実施することによって進路に対する意識を高めた。今後、生徒が進路を考える際の選択肢を増やすためより一層の基礎力の底上げが必須である。〔進路指導係〕 ・キャリアパスポートのサンプル書式をＨＲや進路活動など必要に応じて利用できるように、校内ＬＡＮに用意した。〔キャリア学習係〕
学校づくり	１　安心・安全な学校づくり	・危機管理意識を高め、事案発生の場合に迅速で適切な対応を組織的に行うためのシステムづくりをする。 ・職員間の情報共有を充実させ、不登校や障がいを抱えた生徒の日常生活を見守り、状況に応じてチームでの支援体制を整える。また SC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)をはじめとした専門機関と連携を図り、校内外での支援体制を強化する。 ・様々な教育活動をとおして「集団の中の自分、自分を取り巻く集団」という意識を持たせ、人との関わり合いを大切にする態度を育む。 ・定期的にSST(ソーシャルスキルトレーニング)を実施し、生徒の自己理解を深め、コミュニケーション能力や社会的自立心の育成に努めるとともに、命を大切にする教育を推進していく。 ・新型コロナウイルス感染症対策をとりながら諸活動を進めていく。その際、自粛等が生徒の心身に与える影響を最小限に抑えるため、きめ細かな健康観察により生徒の状況の把握に努めるなど、専門機関との連携を含めた組織的な対応を学校全体であたる。	・生徒の動向に注意し、状況に応じた指導・支援を臨機応変に行った。さらに個々の生徒の実態把握に努め、家庭・地域・関係機関等との連携を強化して指導に当たっていく。これまでのスマホ利用に加え、タブレット導入に伴う諸問題、ネットトラブルなどを巡る新たな課題にも迅速に対応できる指導体制を確立する。〔生徒指導係〕 ・不登校傾向のある生徒に対して、スクールカウンセラーとの面談を不安の解消に対する一つの選択肢として積極的に提案することができた。現世代の若者には「コミュニケーション能力」や「社会的自立心」に課題を持つ生徒が多いため、来年度はＳＳＴを定期的に実施し、まずはクラス内で互いに思いやりを持ち、集団生活を互いに気持ちよく生活する力を育んでいきたい。〔教育相談係〕 ・新型コロナウイルス感染症対策に関わる対応において、生徒の状況把握に努め、生徒の心身に与える影響を最小限に抑えられるよう各部署と連携を図ってきた。〔教務係〕
	２　環境美化の推進	・美化委員会と職員の連携を強化し、日常の清掃活動やごみの分別収集について立案・実施・指導し、校内の清掃美化の徹底を図る。 ・環境問題に対する意識向上を目指し、美化委員会およびISO委員会の自主的な取り組みを職員全体で支援する。	・感染予防のためのごみ出しルールを設定してごみの持ち帰りを推進した結果、ごみの減量化に繋がった。また、分別が不十分なままごみが持ち込まれる場合があるため、収集前のごみの分別の徹底を図りたい。委員会活動では、日常の清掃活動におけるごみの分別収集や資源ごみの回収、一斉美化作業や大掃除の準備・片付け等に責任をもって取り組んでおり、校内美化および環境問題についての意識が向上しつつある。〔ＩＳＯ美化係〕 ・感染防止のため収拾できないゴミは各クラスでの対応が主であり生徒会としては動けなかったので、次年度改善していきたい。また、ＩＳＯ推進委員会が資源ごみの分別作業を担当したが、正副委員長の段階でほぼ仕事が完結してしまい、委員の生徒たち、ひいては学校全体としての取り組みにできなかったため、次年度は美化委員会と仕事を分け合い、全校の生徒に意識づけをさせたい。〔生徒会〕
	３　組織的な学校運営	・令和４年度実施の新指導要領に基づく新たな教育課程へのスムーズな移行を目指し、委員会を通じて3年次選択科目等の残された課題を検討。運用可能な状態にすべく最終調整を図る。 ・生徒個々の多様なニーズに対応するべく選択科目や学科横断科目などの多面的な学びを大切にしながら「地域協創スペシャリストの育成」を具現化するような教育課程を踏まえ、これらを踏襲したものとなるような新教育課程の編成を行う。 ・令和４年度1年生からの３観点学習評価の適用に向けて、関係する諸課題に対して各部署で検討し、連携をとりながら準備を進めてゆく。 ・校務支援システム（C4th）の運用を通して出欠管理や考査情報管理等、効率的な業務遂行を目指す。 ・令和４年度入学生からの生徒1人一台端末（BYOD）導入を目指し、関係部署で準備を進めていく。 ・新型コロナウイルス感染症対策を含む学校運営上の諸課題について係や学年が密接に連携しながら状況に応じた迅速な対応が取れる様な校内態勢を整える。 ・総合技術高校として発足してから８年が経過し、新たな取り組みの方向性に沿いながら運営上の諸課題の解決に取り組む。 ・安全運転、わいせつ行為、体罰、個人情報について研修等を行い、非違行為の未然防止に努める。	・新型コロナウイルス感染症に関わる対応においては校内の各分掌が連携して様々な対応を迅速に行ってきた。今後も校内の感染症防止対策を徹底するとともに、危機対応の体制に関しても更に見直しを行い強化していく必要がある。３観点学習評価については教育課程委員会・教務係・キャリア学習係が連携をとりながら提案を行い、各部署で検討が進められている。〔教務係〕 ・新課程の選択科目について学科教科の調整を図り確定させ、現２年生に対しては説明会を実施して科目選択を完了させた。３観点評価については研修と検討を重ね基準作りを進めた。〔教育課程委員会〕 ・校務支援システム（C4th）導入の初年度にあたり、成績及び出欠席情報管理等に関する職員向けマニュアルを整備し運用することができた。〔情報処理係・教務係〕 ・総合技術高校として、少子化問題への取り組みと併せて、新たな方向性に沿いながら、検討を行っていく。〔教務係〕 ・非違行為の未然防止に努めるため、研修の回数を増やすなど、意識啓発の方策に継続して取り組んでいく。〔教務係〕 ・「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の取り組みにより、地域や企業との関係を築き、生徒たちが成長するための支援体制を強化することができた。また、総合技術を発展させた３年間の教育課程（カリキュラム）を設置することができた。〔地域協創推進室〕